

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城 中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	前年度の目標、指標を踏まえて、今年度の目標、指標が設定されている。その設定は評価できる。これを発展的なものとして、評価委員会としては、評価する。教育の目標、指標としての流れにおける軸もある。学校における教育力の向上は、一貫とした目標、指標の設定が期待される場所である。過去にも評価してきたことではあるが、目標、指標の設定に堅実な軸があり、この軸から発展的、向上的な発展を基本とした教育がなされることを期待したい。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策は適切である。教職員が、目標達成のための方策について、相互に理解し、それを発展させるという向上的な創意工夫が、方策に見られる。評価委員会は、これを評価するとともに、児童に対する教育に反映させることを期待したい。方策の選択については、目標、指標を常に意識してこの軸がぶれないことを期待したい。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	自己評価の結果及び分析についても、適切ものであると評価する。目標、指標の設定を分析し、検討しながら継続性のあるものにしていただきたい。結果の分析は、客観性が必要とされる場所、適切になされていると思われる。結果の認識とその分析の妥当性は、次年度にもつながる大切な事項である。
今後の改善策(案)の適切さ	A	自分で考える、あいさつをする、外で遊ぶ、という目標は評価できる。コロナ感染症という社会情勢のもと外で遊ぶ、という目標、改善策は、難しい点が多くあると思われるが、これを大きく評価したい。幼少期に、外でどれだけ遊ぶかによって、知力、体力を育むということは評価委員会も共感できる。客観性のある改善策と判断できる。
その他		働き方改革といわれる社会的要請がある。これはどの職種にも必要とされている。教育界においても、タブレット授業、地域について学ぶなど、多種多様なものが必要とされている。少子化と言われるが、児童の家庭環境もそれぞれ違っている。目に見えない事項が発生することもある。教職員の置かれた環境は、複雑であるといえよう。教職員は児童の管理とともに自己の健康の管理も必然である。教職員が相互に理解し合い、学校業務を遂行していただきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>本校の知徳体の取組について、目標、指標、方策、結果と分析、改善策等が適切であると評価をいただいた。全教職員で、学校関係者評価委員で出された意見や評価を再度確認し、今後の改善について、目標、指標を常に意識して次のように取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底に向けての取組を継続するとともに、児童のつまずきを的確に把握し、個人差に応じた指導を進めていく。 ・思考力・判断力・表現力の向上を目指し、自分の考えを根拠を挙げて説明する活動や振り返りを大切にする授業づくりを続けていく。 ・自分の役割を果たしたり、自分や友達のよさが認められたりする縦割り班活動になるよう全教職員で意識し、組織的・計画的に行っていく。 ・目標をもってやりぬく児童を育成するために、自分で目標を立て、その都度振り返り、改善する場を設定する。全教職員で一人一人の児童の伸びや頑張りを積極的に評価していく。 ・外遊びキャンペーンを継続して外遊びの機会を増やすと共に集団遊びの経験も増やすことで体力の向上を目指す。保護者と連携をとりながら、基本的な生活習慣「早寝・早起き・朝ご飯・読書」が身に付いている児童、メディアコントロールができる児童を育てていく。 ・避難する場所を確認したり、避難訓練の事前事後指導を丁寧に行ったりする。放送を立ち止まって静かに聞くことを徹底する。 ・毎月の企画委員会で、定期的に教育活動を見直すことで、児童と向き合う時間を確保する。
--------------------	--